# 「教職の魅力創造プラットフォーム会議」に参加して

伊藤　智（山形県立山形西高等学校教諭）

## １．教職の魅力創造プラットフォーム会議について

教職志願者の減少が問題になってからしばらく経ちますが、なかなか改善の方向に向かう様子が見られません。山形県の小中学校でも教員が不足し、ほかの先生方で授業を受け持たざるを得ない状況となっています。そのような中、長時間労働の一因と言われている部活動の地域移行、処遇面の改善として給特法の改正など、ハード面での改善が進められています。もちろん、労働環境を整えることは必要なことではありますが、それだけでは教職志願者が増えるのか、私自身少し疑問を抱いていました。そのような時期に、「教職の魅力創造プラットフォーム会議」に参加させていただく機会を得ました。会の趣旨をみると、教職の魅力創造、教職志願者増加に向けた戦略に関することなどが挙げられています。「小学校教員体験セミナー」「聞き書きプロジェクト」「学びのフォーラム」などの活動は、教職を目指す生徒、学生を増やすために、地道ではありますが、教職の魅力を肌で感じることができるとても大切な取り組みだと感じました。こういった活動を通じて、「労働環境がいいから教職に就こう」ではなく、やはり「生徒たちと関わることにやりがいを感じるから教職に就こう」という教員志望者がたくさん出てきてほしいと思います。ちょうどこの原稿を書いている日に、山形大学から地域教育文化学部が教員養成に特化した「教育学部」に改組となる発表がありました。教職に魅力を感じ、志を高く持った生徒の受け皿が地元山形で広がります。こういった環境で育った生徒が教職に就き、その魅力をさらに子供たちに伝え、教職に魅力を感じてもらう。そういった好循環が続いていくことが、教職の魅力創造にとどまらず、社会を担う人材の育成につながり、地域の、国の発展につながっていくことを願っています。

## ２．「教職の魅力」を広めるために

そもそも、教員という職業はいま現在でも十分に魅力的な職業だと考えています。自分の経験や得意分野を生かし、純粋な子どもたちの成長に深くかかわることができる、これほど「やりがい」のある職業はないと思っています。しかし、この「やりがい」という言葉の裏側に、さまざまな問題が潜んでいるのかもしれません。世間の期待に過度に応えようと、「やりがい」だけで教職を続けることの難しさがあり、「教職の魅力」がなかなか広がっていかない要因になっているのではないでしょうか。「教員はブラックだ」という新聞報道やネットの情報だけに振り回されることなく、「小学校教員体験セミナー」のように早い段階から実際に体験をすることが大切であり、そういったことで教職の魅力は十分に伝わっていくと思います。大変ではありますが、こういった企画を積極的に広めていただければ思います。また、ワークライフバランスをしっかりと保って仕事に向かうことができる環境づくりも同時に進めていく必要があります。まずは、生徒の目の前にいる我々が、充実して楽しそうに教職という仕事に向き合っている姿を日々見せることが何よりも大切だと改めて感じました。